



Japan Drone Utilize Institution - JDUI -

一般社団法人日本ドローン活用推進機構

無人航空機を活用した 密漁防止及び水産資源保護 実証実験 実施内容

2024/3/6

事業展開 2023年度実施内容

無人航空機を活用した密漁防止及び水産資源保護実証実験

	2021年度実施内容 (2021.4~2022.3)	2022年度実施内容 (2022.4~2023.3)	2023年度実施内容 (2023.4~2024.3)
施策検討	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画
	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討
技術開発	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ
	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ
	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発
	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発
技術検証	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験
	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験
	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験
	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験
事業展開	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築
	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成
	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動

中心となる
実施事項

補足的な
実施事項

密漁防止ソリューションの構築

概要

蓬田村漁業協同組合

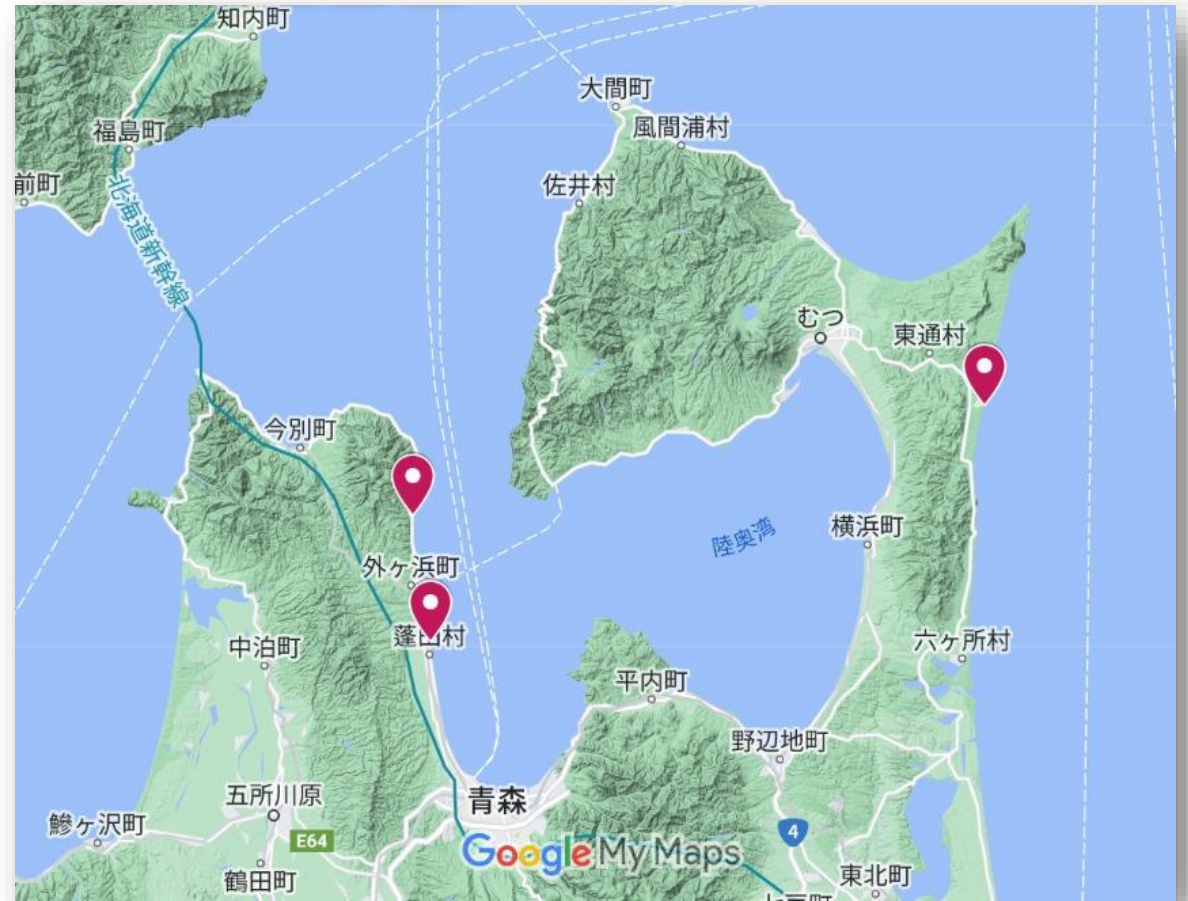
- ◆ 蓬田村、蓬田村漁業協同組合、一般社団法人日本ドローン活用推進機構（JDUI）での三者協定締結。
- ◆ ドローンを使用した夜間警戒飛行および密漁船の撮影と警告などの実証実験を実施。
- ◆ 漁協職員3名、村役場職員3名の資格取得。

外ヶ浜漁業協同組合

- ◆ ドローンを使用した夜間警戒飛行および密漁船の撮影と警告などの実証実験を実施。

小田野沢漁業協同組合

- ◆ ドローンにレーダーを組み合わせた不審船検知システムの実証実験を実施。



密漁防止ソリューションの構築

無人航空機だけですべてをカバーすることは技術的に難しいが、密漁対策海域の特徴や自治体の要望をヒアリングし、様々な技術と取り入れることで、最も適した密漁防止ソリューションの構築を提案する。



要素技術の組み合わせで、多様な密漁対策の可能性あり！

密漁防止ソリューションの構築

様々な要素技術を組み合わせる為には、機器同士の連携、実際に現場で使用ができるか、リスクは無いか等の検証をしていく必要がある。

第1フェーズ

課題抽出



- ・ 現状やリスクの確認
- ・ 課題の洗い出し
- ・ 使用技術の検討

第2フェーズ

技術検証



- ・ 技術検証を行う
例) レーダ、ライト、ドローンを活用した密漁対策

第3フェーズ

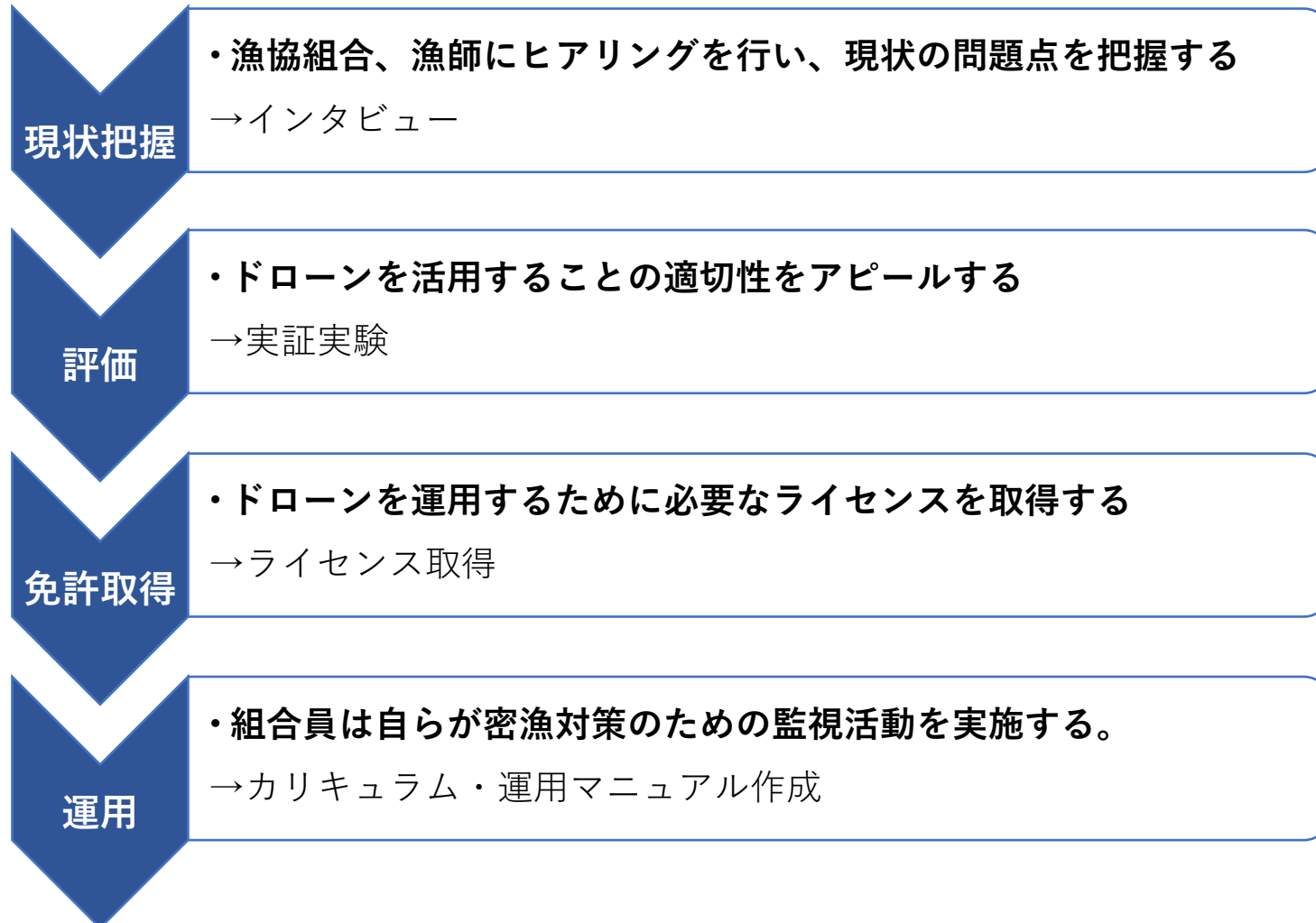
実装に向け最終準備



- ・ 必要に応じてシステム開発
例) 複数ドローンを使用する際の機器連携、等

密漁防止ソリューションの構築

密漁防止ソリューション導入パターン①



密漁防止ソリューションの構築__蓬田村漁協

① ヒアリング

実施日	内容
2023年5月11日	初訪問。村・漁協からのヒアリング、事業実施に向けた各種調整。
2023年6月3日	蓬田村役場、漁協組合の計8名を対象に、昨年度の活動および今後の無人航空機を使用した密漁対策についての説明会と意見交換会を実施。
2023年7月10日	密漁について再ヒアリング。実際の密漁現場視察。



- ◆ ナマコの密漁が特に多い
- ◆ 対策として監視カメラ（AI・アラート・メール転送）を活用
- ◆ 未明に陸から海岸沿いを巡視し、海上にサーチライトを当てて警戒している
- ◆ モーターボートで明け方に湾内へ乗り入れ、日の出と共に逃走する
- ◆ ここ数年逮捕者が出ているが、それでも密漁がなくなるしない

密漁防止ソリューションの構築__蓬田村漁協

② 実証実験



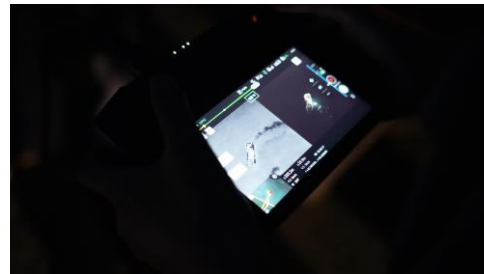
2023年8月8日

13:00頃 DJI Mavic 2 Enterprise Advancedで湾内を飛行。風速、高度など支障がないことを確認。

15:00頃 CHASING M2で湾内で運用デモンストレーションを実施。

2023年8月9日

17:00頃 DJI Mavic 2 Enterprise Advancedで夜間飛行。試験用のダミーの船を湾内に配置し、赤外線カメラやライト照射をした実際の撮影状況や撮影画像、動画などを確認。



左：蓬田村湾内を上空撮影
中：水中ドローン（CHASING M2）による水底撮影
右：夜間飛行でのダミー船撮影

密漁防止ソリューションの構築__蓬田村漁協

③ライセンス取得

実施日	内容
2023年10月13日	無人航空機操縦士二等資格説明会、ならびにマイクロドローン操縦体験会
2023年11月24日	実証飛行および無人航空機操縦士二等資格研修・トレーニング
2024年1月18日	無人航空機操縦士二等資格研修と修了審査



密漁防止ソリューションの構築__蓬田村漁協

補足

目標	内容
2023年8月8日 ～2023年8月9日	「無人航空機（ドローン）の活用による地方創生、農林水産業の推進に関する協定書」締結。ならびにドローンを活用した密漁防止公開検証飛行を実施。



密漁防止ソリューションの構築__外ヶ浜町

① ヒアリング

実施日	内容
2024年1月12日	初訪問。村・漁協からのヒアリング、事業実施に向けた各種調整。
2024年2月13日	現場視察。実際の密漁現場でドローンの飛行が可能かりハーサル



- ◆ ナマコ、アワビなどの密漁が多い
- ◆ 対策として監視カメラを活用し、その他、巡回を実施
- ◆ 未明に陸から海岸沿いを巡視し、海上にサーチライトを当てて警戒している
- ◆ モーターボートで明け方に湾内へ乗り入れ、日の出と共に逃走する
- ◆ ここ数年、近隣の地域にて逮捕者が出ているが、密漁がなくなる

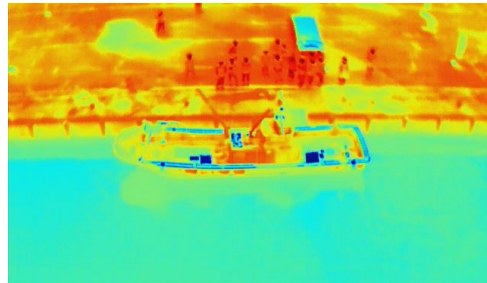
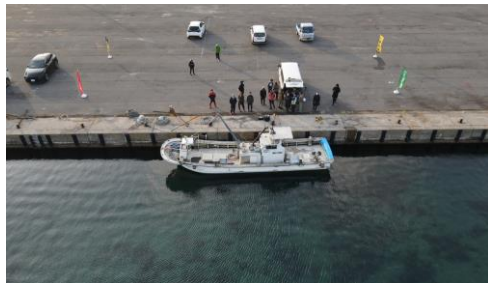
密漁防止ソリューションの構築__外ヶ浜漁協

② 実証実験



2024年2月14日

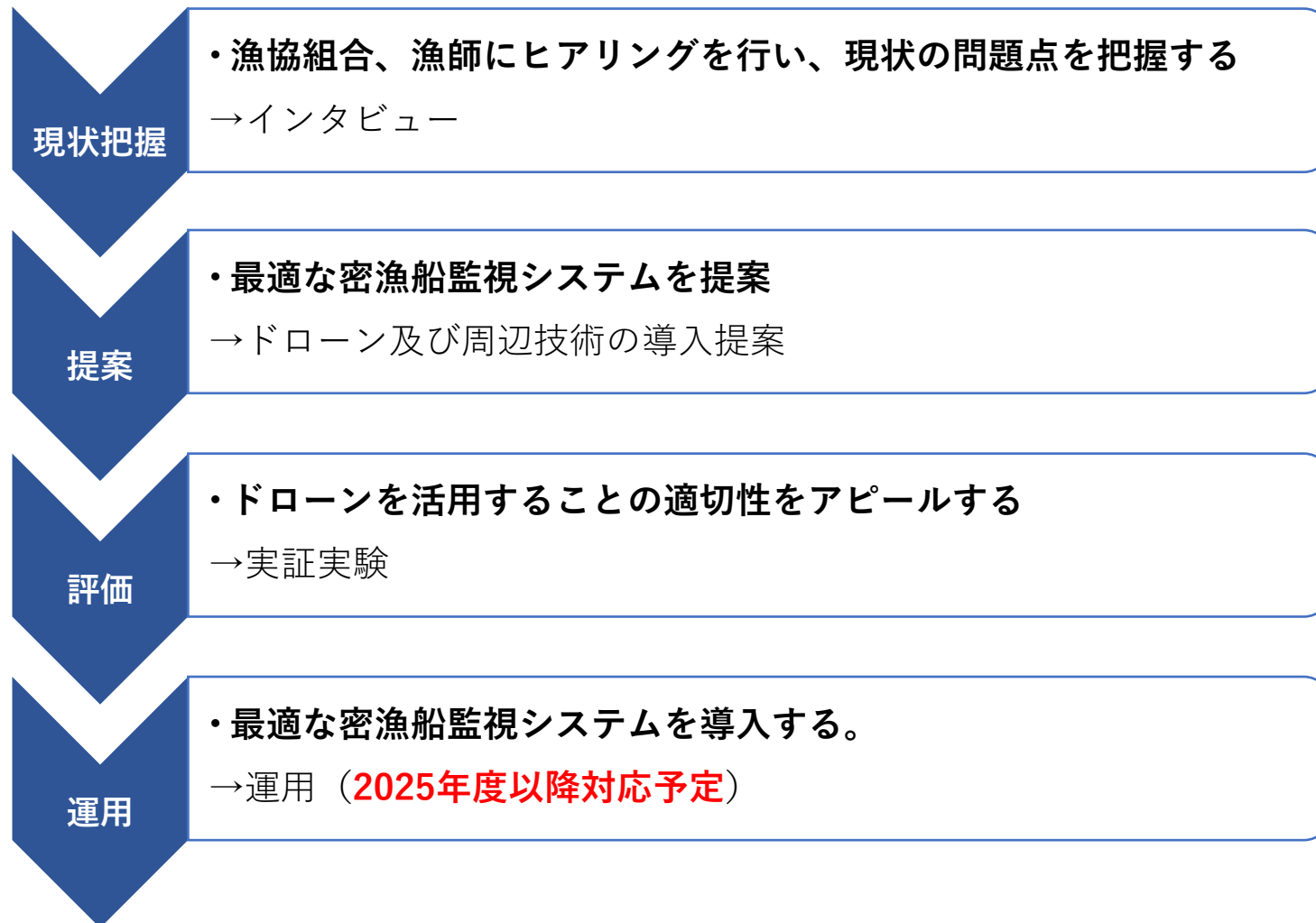
- 15:00頃 DJI Mavic 2 Enterprise Advancedで自動飛行。
試験用のダミーの船を湾内に配置し、可視光カメラの撮影状況や撮影画像、動画などを確認。
- 16:00頃 CHASING M2で湾内で運用デモンストレーションを実施。
- 17:00頃 DJI Mavic 2 Enterprise Advancedで夜間飛行。
試験用のダミーの船を湾内に配置し、赤外線カメラやライト照射をした撮影状況や撮影画像、動画などを確認。



左：ドローン用いて上空から、ダミーの船舶を通常撮影
中：左写真と同じ画角にて赤外線カメラを使用して撮影
右：水中ドローンで海底に残る跡を撮影

密漁防止ソリューションの構築

密漁防止ソリューション導入パターン②



密漁防止ソリューションの構築__小田野沢漁協

① ヒアリング

実施日	内容
2023年8月9日	初訪問。漁協でのヒアリング。
2023年9月4日	漁協組合、海上保安庁と共に事業実施に向けた各種調整。現状の設備と現場を視察。
2023年11月2日	ドローンを活用した密漁対策実証実験に向けた打ち合わせ。



- ◆ 主な被害品目はアワビ
- ◆ 被害場所は太平洋側
- ◆ 県の設置した監視カメラ2台の他に、自費で億単位の監視カメラを2台追加している。
- ◆ 監視カメラで赤外線撮影をしているが、映像で船らしきものを見つけても沖側になると映りが不鮮明。

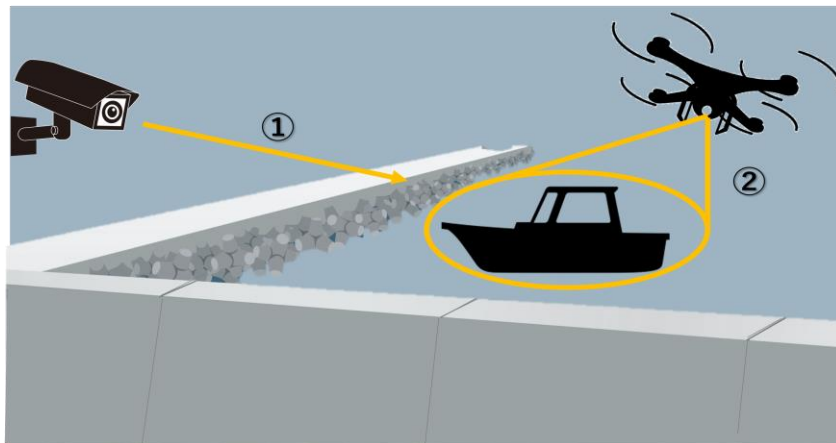
密漁防止ソリューションの構築__小田野沢漁協

① ヒアリング

小田野沢漁業協同組合の要望

- ◆ 丘から直線距離約2kmの沖合にドローンによる警戒飛行を行いたい。
- ◆ スピーカーで密漁船に対して警告したい。
- ◆ 密漁船を撮影し、その映像や写真を解析したい
- ◆ 不審船をより正確に察知できるシステムを取り入れたい。

固定カメラとあわせたドローン運用がより効率的と判断



活用イメージ

①固定カメラで不審船を監視

不審船を発見

②ドローンで近づき不審船を撮影

密漁防止ソリューションの構築__小田野沢漁協

② 提案



- ①不審船/漂流物を検出
- ②監視カメラの各種システムと融合
- ③メールやアプリで通知発信

監視レーダー

レーダー技術により
不審船を検出

- ・ 広範囲での監視可能
⇒ 2km先でも検出可能
- ・ 威嚇/警報装置との連動
⇒ 拡声器/回転灯/スポットライト
- ・ アラートメール配信可能

目視や地上カメラでは検出できない**夜間/悪天候**でも不審船の検出が可能に！

密漁防止ソリューションの構築__小田野沢漁協

② 提案



レーダー



キセノンライト



ドローン

- ①地上での監視（レーダー）
- ②不審船等を検知した際に、キセノンライトを作動させ、対象物を特定
- ③ドローンを離陸、対象物へ近づき撮影を行う

地上(カメラ/ライト/レーダー)から不審船の検出を実施

密漁防止ソリューションの構築__小田野沢漁協

③ 実証実験

【検証内容】

海洋レーダー・キセノンライト・カメラによる監視、ドローン撮影の連携動作を検証。

①



②



① レーダーによる検出画面

② キセノンライトによる照射

③ ②の照射先の撮影画面

④ ドローンによる自動飛行

③



④



事業展開 2023年度実施内容

無人航空機を活用した密漁防止及び水産資源保護実証実験

2021年度実施内容 (2021.4~2022.3)

2022年度実施内容 (予定) (2022.4~2023.3)

2023年度実施内容 (予定) (2023.4~2024.3)

	2021年度実施内容 (2021.4~2022.3)	2022年度実施内容 (予定) (2022.4~2023.3)	2023年度実施内容 (予定) (2023.4~2024.3)
施策検討	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画
	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討
技術開発	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ
	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ
	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発
	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発
技術検証	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験
	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験
	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験
	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験
事業展開	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築
	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成
	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動

中心となる
実施事項

補足的な
実施事項

業界別ドローン活用事例

農業

農薬散布、作物の健康状態のモニタリング、農地面積調査
捗状況の把握、点検、計測、レポート作成、地形マッピング



点検

農薬散布、作物の健康状態のモニタリング、農地面積調査
電力線やパイプラインの巡視、太陽光発電施設のモニタリング、
風力発電タービンの点検



防災

救助活動の支援に活用されます。例えば、洪水や地震
の被害状況をドローンが空中から調査し、救助活動の
誘導や被災地のマッピング



教育

プログラミング教室、ドローン操縦体験学習、
ドローンショー



機体例

	大型	中型	小型
画像	 <p>AEROBO wing</p> <p>Best of Japan Drone Award 2020 製品・技術部門最優秀賞</p>	 <p>AIR HOPE</p>	
機体名称	エアロボウイング (AS-VT01)	AIR HOPE AX	Mavic 2 Pro
メーカー	エアロセンス (日本)	セブントゥーファイブ (日本)	DJI (中国)
サイズ	縦 : 1250 mm 横 : 2130 mm 高さ : 415 mm	縦 : 930 mm 横 : 930 mm 高さ : 680 mm	縦 : 322 mm 横 : 242 mm 高さ : 84 mm
重量	9.0 kg	13.6 kg	0.907 kg
最大離陸重量	10.0 kg	16.6 kg	-
最大飛行速度	100 km/h	65 km/h	72 km/h
運用限界高度	-	3000 m	6000 m
伝送距離	1500 m	500 m	6000 m
最大飛行時間	40分	45分	31分
最大風速抵抗	10 m/s	8 m/s	10 m/s
動作環境温度	-10~40℃	0~40℃	-10~40℃
ペイロード	カメラレンズ選択可能、1kg	カメラ、物流BOX、測量機器など選択可能	可視光カメラの搭載

ドローンライセンス

一等 無人航空機操縦者技能証明



- **国家資格**
- 現在法律で許可されている飛行方法、飛行場所のすべてを操縦可能
- 飛行許可申請の一部を省略可能
- 知識・技術の保証がされている

スクール1~3日、本試験1日で取得可能

取得に補助金制度有り

二等 無人航空機操縦者技能証明



- **国家資格**
- 飛行許可申請の一部を省略可能
- 知識・技術の保証がされている
- 企業・自治体で最も多く取得されている

スクール1~3日、本試験1日で取得可能

取得に補助金制度有り

民間ライセンス (JUIDA、DPAなど)



- 飛行許可申請の際、技術証明に使用できる

最短1日で取得可能

ドローン導入プラン例『密漁対策』

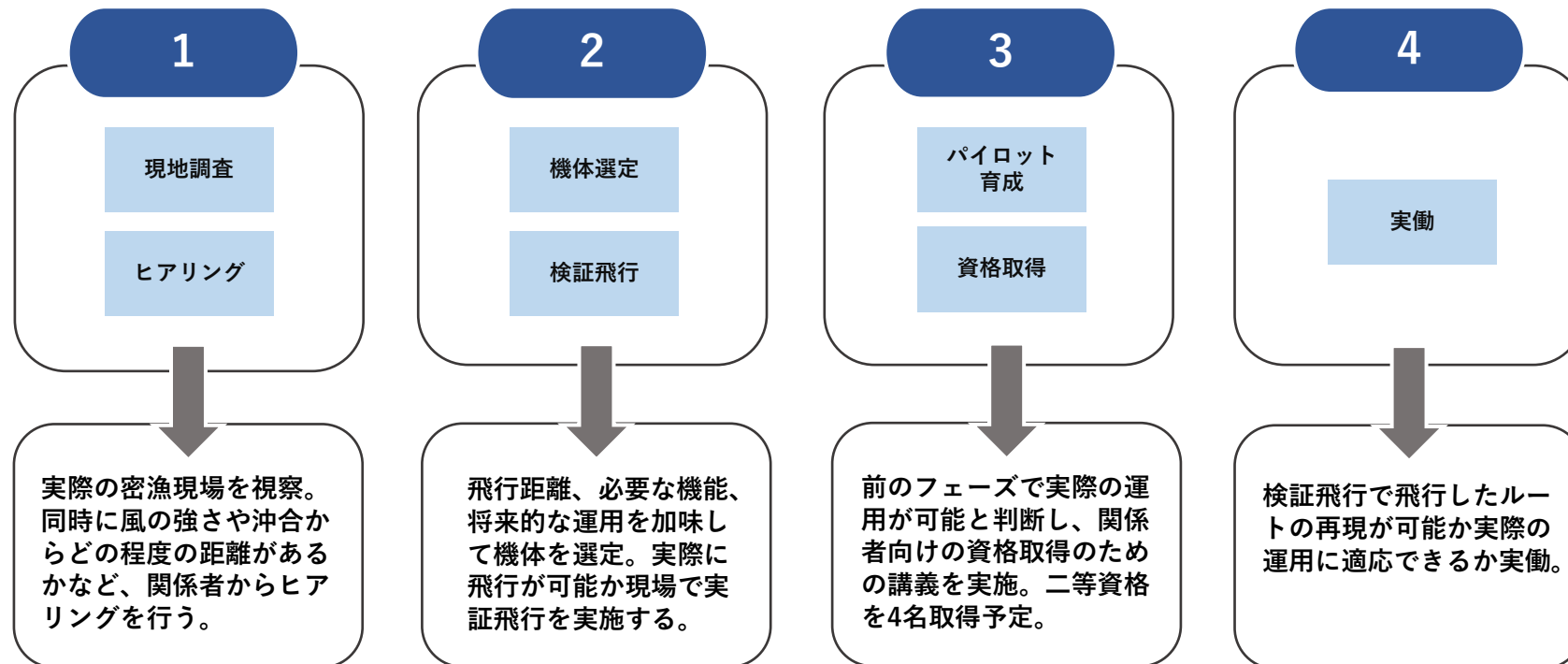


ドローンで監視および警戒飛行での密漁防止

目的

青森県蓬田村では、ナマコの密漁が絶えず警戒を続けている。夜間の見回りや、サーチライトの照射などの対策に人員を投入しているが、限られた人数で実施するには負担が大きい。そのため、ドローンによる警戒飛行を行い、人手不足解消と負担軽減に取り組む。

取り組み

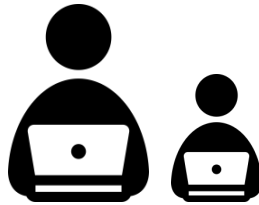


ドローン導入プラン例『密漁対策』



体制例

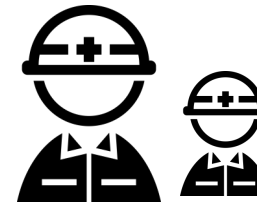
各種申請対応



2名 (メイン担当者・サブ担当者)

インターネットから飛行申請などの各種手続きを行う

ドローンパイロット



2名 (メインパイロット・サブパイロット)

メインパイロットが操縦を行い、サブパイロットが周囲の安全確認などを行う

ドローン機体



2台

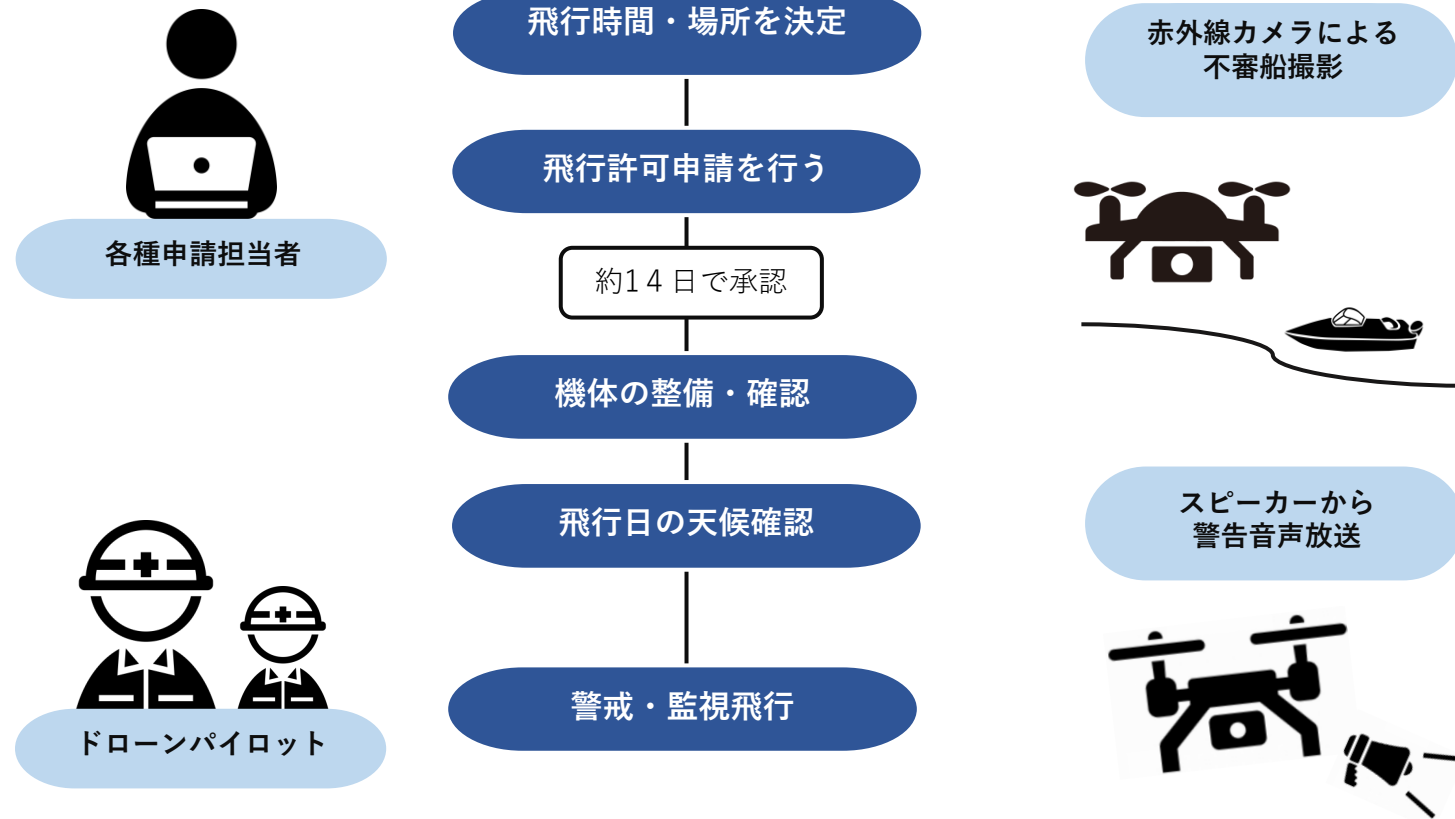
DJI MAVIC 3 ZOOM
+スピーカー



ドローン導入プラン例『密漁対策』



フロー



ドローンを飛行させるために必要な手続き

飛行許可申請

ドローンは日本全国どこでも飛ばしていいというわけではありません。事故を起こさないために、危険な場所や状況で飛行することは禁止されています。では、いつ、どこで飛行させても大丈夫なのか、誰が管理しているのでしょうか？ それは、国土交通省です。ドローンには飛行する場所「[飛行空域](#)」と、ドローンの飛行条件「[飛行方法](#)」（この2つをまとめて「[特定飛行](#)」と呼びます）によっては、事前に国土交通省へ「[飛行許可申請](#)」を行わなくてはなりません。

例えば、明るくて視界が良好な昼間に、周囲に建物がなく人もいない山の中で、ドローンを低空飛行させるのであれば「[飛行許可申請](#)」は必要ありません。

ですが、150m以上の高さや、人口集中地区（通称DID地区、東京23区ないほぼ全てが該当）や、花火大会でドローンを飛行させるのであれば「[飛行許可申請](#)」は必須です。

特定飛行

飛行許可申請が必要な飛行空域

- ◆ 150m以上の高さの上空
- ◆ 空港周辺の空域
- ◆ 人工集中地区の上空（通称：DID地区）
- ◆ 緊急用務空域

※緊急用務空域は、災害時の救助や消火の妨げになる可能性がある場所なので、許可申請をしても一般ドローンは承認がおりない。

飛行許可申請が必要な飛行方法

- ◆ 夜間飛行
- ◆ 目視外飛行
- ◆ 人、または物件から30m未満での飛行
- ◆ 催し物上空での飛行
- ◆ 危険物の輸送
- ◆ 物件投下

ドローンの飛行カテゴリー

飛行カテゴリー＝飛行リスクの高さ

ドローンにおける「**飛行カテゴリー**」とは「その飛行方法と飛行場所で、どのくらいリスクがあるのか？」を、航空法に基づいて三段階に分類したものです。カテゴリーで重要になるのは「**飛行方法**」「**飛行場所**」「**立入管理措置の有無**」の三つです。

「**立入管理措置**」とは、ドローンを第三者（関係者）以外の上空で飛行させないよう、立入禁止の看板を立てたり、第三者が侵入しないように監視する補助者を配置したりすることを指します。

カテゴリーⅢ

特定飛行のうち、無人航空機の飛行経路下において**立入管理措置を講じない**で行う飛行。（＝第三者の上空で特定飛行を行う）

例・市街地を横断してドローンで遠くの場所に荷物を届ける。
（150m以上の高さの上空、人口集中地区の上空、目視外飛行、物件投下に該当＋立入管理措置あり）

カテゴリーⅡ

特定飛行のうち、無人航空機の飛行経路下において**立入管理措置を講じた**うえで行う飛行。（＝第三者の上空を飛行しない）

例・花火大会で写真撮影をするのでドローンの飛行経路下に人が入らないよう看板を立てる。
（150m以上の高さの上空、夜間飛行、催し物上空での飛行に該当＋立入禁止措置なし）

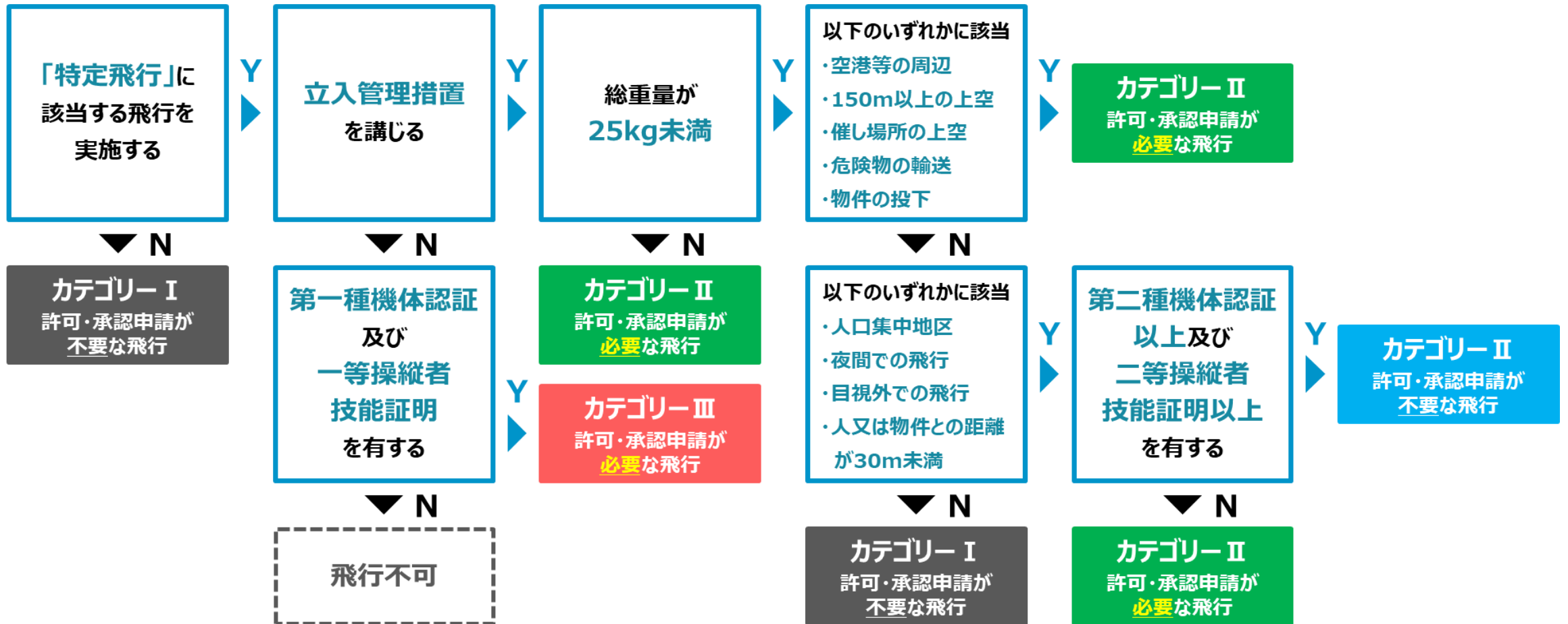
カテゴリーⅠ

特定飛行に該当しない飛行。航空法上の飛行許可・承認手続きは不要。

例・屋間に沖合に出したボートの上から海面150m以下、目視できる範囲でドローンを飛行させて動画撮影。

飛行カテゴリー判断基準

YES ▶ NO ▶



夜間飛行の運用方法

必須条件

- 限定なしの飛行に必要な備品な機材の用意。
- 機体の姿勢及び方向が正確に視認できる灯火を有するドローンの用意。
- 地上の離着陸地点、緊急着陸地点、回避すべき障害物を照らす照明の用意。
- 日中に現地調査を実施し、地形や障害物、風の強い場所などを確認しておくこと。

◎推奨

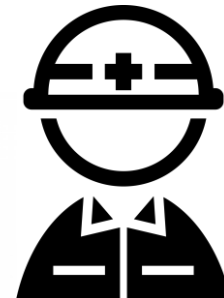
操縦者の手元で位置、高度、速度等の情報が把握できる送信機の使用。



目視外飛行の運用方法

必須条件

- 限定なしの飛行に必要な備品な機材の用意。
- 機体に設置されたカメラや機体の位置、速度、異常等の状態を把握することができるドローンの用意。
- 補助者の配置、あるいはそれに準ずる装備の用意。



目視買い飛行の運用方法

必須条件

目視外飛行



補助者あり

- 自動操縦システム及び機体の外の様子が監視できる機体
- 搭載カメラや機体の高度、速度、位置、不具合状況等を地上で監視できる操縦装置
- 不具合発生時に対応する危機回避機能（フェールセーフ機能）
 - ▶ 電波断絶時の自動帰還や空中停止機能
 - ▶ GNSS電波異常時の空中停止や安全な自動着陸
 - ▶ 電池異常時の発煙発火防止など

必須条件

目視外飛行



補助者なし

- 航空機からの視認性を高める灯火、塗色
- 機体や地上に設置されたカメラ等により飛行経路全体の航空機の状況が常に確認できるもの
- 第三者に危害を加えないことを、製造事業者等が証明した機能
- 機体の針路、姿勢、高度、速度及び周辺の気象状況等を把握できる操縦装置
- 計画上の飛行経路と飛行中の機体の位置の差を把握できる操縦装置

自動飛行の運用方法

必須条件

目視外飛行

+

補助者あり

- 限定なしの飛行に必要な備品な機材の用意
 - ▶ 夜間や目視外の場合は、当然前頁の必須条件を厳守すること
- 日中に現地調査を実施し、地形や障害物、風の強い場所などを確認しておくこと。

注意事項

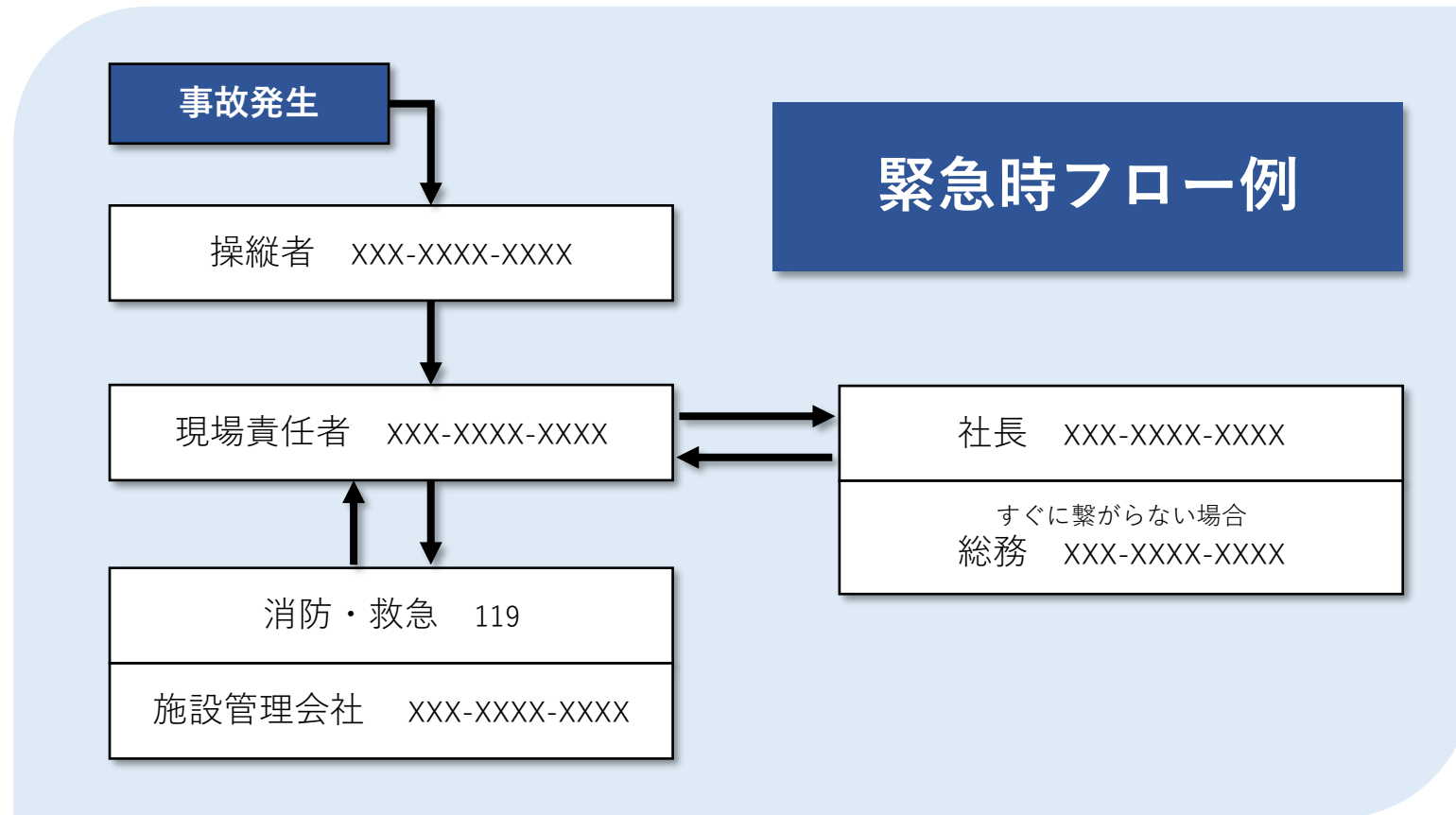
- 夜間+目視内→自動でも手動でも、包括申請で飛行可能
- 夜間+目視外→自動でも手動でも、**通常の申請では飛行できない**
 - ▶ **独自のマニュアル**を作成する必要がある

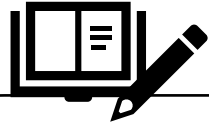


- ① おおよその飛行ルートや実施日時などを決め、飛行計画を作成する
- ② 日中に現地調査を行い、周辺環境を確認する（地形や障害物、風の強い場所など）
- ③ 現地調査で得られた情報をもとに、①の飛行計画を訂正する
- ④ 自動飛行ツールで飛行プランを作成する

緊急時のフロー作成

緊急時の連絡先や、そのフローはすぐに確認できるように控えておく。機体が人にぶつかって怪我をしてしまった場合や、バッテリーが発火して周囲に燃え移ってしまった場合など、あらゆる場面を想定しておくことが必要。





飛行日誌とは

① 飛行記録

—飛行毎の実績が記載されたもの

② 日常点検記録

ドローンを飛行させる前に行う飛行前点検等の日常点検の結果が記載されたもの

③ 点検整備記録

定期的な点検整備、修理、改造の内容が記載されたもの

上記3項目で構成されるもので、記載する媒体は紙媒体、電磁的記録のどちらでも構いません。

特定飛行を行う場合は、必ず携行・記載する必要があり、これを怠ったり虚偽の記載を行ったりした場合は航空法第157条の11に従い、10万円以下の罰金が科せられます。

記載義務があるのは特定飛行のみですが、そのほかの飛行においても飛行日誌の記載が推奨とされています。書き方やフォーマットの見本は国土交通省「無人航空機の飛行日誌の取り扱い要領」

(<https://www.mlit.go.jp/koku/content/001574394.pdf>) を参照するほか、スマートフォンの専用アプリを利用して記載することも可能です。



事業展開 2023年度実施内容

無人航空機を活用した密漁防止及び水産資源保護実証実験

2021年度実施内容 (2021.4~2022.3)

2022年度実施内容 (予定) (2022.4~2023.3)

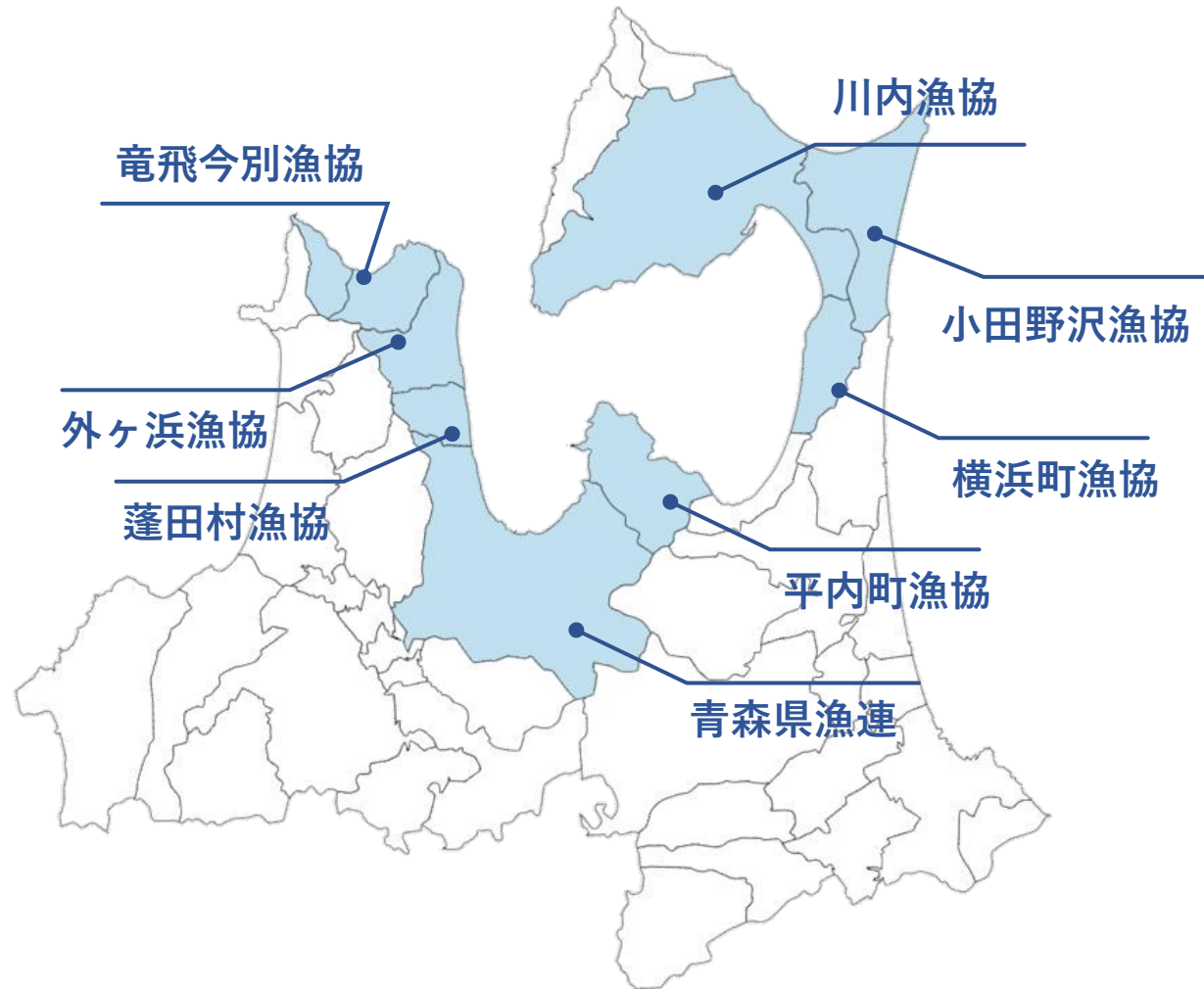
2023年度実施内容 (予定) (2023.4~2024.3)

	2021年度実施内容 (2021.4~2022.3)	2022年度実施内容 (予定) (2022.4~2023.3)	2023年度実施内容 (予定) (2023.4~2024.3)
施策検討	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画	密漁防止のためのドローン活用企画
	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討	活用機体・システムの検討
技術開発	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ	固定翼機の機体選定・カスタマイズ
	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ	回転翼機の機体選定・カスタマイズ
	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発	AI画像解析システム開発
	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発	密漁船監視システム開発
技術検証	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験	固定翼機を使用した実証実験
	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験	回転翼機を使用した実証実験
	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験	AI画像解析システムの実証実験
	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験	密漁船監視システムの実証実験
事業展開	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築	密漁防止ソリューションの構築
	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成	トレーニングカリキュラム作成
	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動	広報活動・プロモーション活動

中心となる
実施事項

補足的な
実施事項

広報活動・プロモーション活動



漁協様	状況	ステータス
今別町	提案中	2024年度の実施内容を提案中
蓬田村	実施済	2023年に実証実験を実施 ～2024年にドローンの操縦トレーニング実施 資格取得者4名 運用に向けて調整中
平内町	実施予定	2024年1月～ ドローン利活用の一環として廃校になった体育館を ドローンスクールの講習場所として借用契約
横浜町	提案中	2024年度の実施内容を提案中
小田野沢漁協	提案済み	2023年に実証実験を実施 2024年引き続き密漁対策の提案と検証を行う
外ヶ浜漁協	実施済	2024年に実証実験を実施 引き続き密漁対策の提案と検証を行う
青森県漁連	適宜	各自治体に関する情報交換を継続



広報活動・プロモーション活動

1 今別町			
2023年	5月10日	訪問	龍飛今別漁業協同組合にて、密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	6月5日	説明会	漁業協同組合、今別町役場を対象に、日本財団事業に関する説明およびドローンの利活用に関する提案・説明
	7月11日	訪問	龍飛今別漁業協同組合、今別町役場にてドローンの利活用および実例の紹介
	11月2日	訪問	今別町役場でドローンを利用した地域活性化について提案



広報活動・プロモーション活動

2 蓬田村			
2023年	5月11日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	6月5日	説明会	漁業協同組合、今別町役場を対象に、日本財団事業に関する説明およびドローンの利活用に関する提案・説明
	7月10日	視察	実際の密漁現場の下見
	8月8日	協定式 実証実験	蓬田村、蓬田村漁協、日本ドローン活用推進機の三者『無人航空機の活用による地方創生、農林水産業の推進に関する協定』を締結。その後検証飛行。
	10月13日	資格説明会 体験会	無人航空機操縦士資格の説明と小型ドローンの操縦体験会
	11月1日	訪問	令和6年度に向けた小型ドローン配備および資格取得に関する打ち合わせ
	11月24日	資格講習	無人航空機操縦士資格取得に向けた座学と実地講トレーニング
2024年	1月18日	資格講習	無人航空機操縦士資格の講習と終了審査

広報活動・プロモーション活動

3 平内町			
2023年	6月23日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	11月1日	説明会	漁業協同組合、今別町役場を対象に、日本財団事業に関する説明およびドローンの利活用に関する提案・説明
	11月27日	下見	ドローンスクール用に活用する廃校の下見

4 横浜町			
2023年	8月9日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明



広報活動・プロモーション活動

5 小田野沢漁協			
2023年	8月9日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	9月4日	視察	ヒアリング2回目、対策の提案、密漁が行われている付近の海岸まで下見、現在の施設確認
	11月2日	訪問	密漁対策実証実験に関する打ち合わせ
	11月27日	実証実験	レーダーとカメラを利用し、不審船を検知、発見した不審船に対する警告・撮影をドローンで行う
2024年	1月26日	訪問	実証実験の振り返り、今後についての打ち合わせ

6 外ヶ浜漁協			
2023年	1月24日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	2月14日	実証実験	小型ドローンを利用し、不審船を検知、発見した不審船に対する警告・撮影をドローンで行う



広報活動・プロモーション活動

7 青森県漁連			
2023年	5月10日	訪問	密漁に関するヒアリングと、ドローンを活用した密漁対策の紹介・説明
	7月11日	訪問	小田野沢漁協における密漁対策の相談依頼を受ける
	8月9日	打ち合わせ	小田野沢漁業協同組合へ県漁連職員1名と訪問
	9月4日	打ち合わせ	再度小田野沢漁業協同組合へ県漁連職員1名と訪問、現場視察



メディア掲載実績 新聞・Web

◆青森県 蓬田村

ドローン密漁対策 協定締結



Web東奥 2023年8月9日掲載



NHK 青森 NEWS
2023年8月8日放送・WEB掲載

メディア掲載実績 新聞・Web

◆青森県 蓬田村

ドローン密漁対策 協定締結



青森テレビ「わっち!! ニュース」
2023年8月8日放送・WEB掲載



読売新聞オンライン
2023年9月21日掲載

メディア掲載実績 新聞・Web

◆青森県 蓬田村

ドローン密漁対策 資格講習・トレーニング

2023年(令和5年)11月25日(土曜日) 青森新聞

来年度からドローンを使ったナマコの密漁対策に取り組む予定の蓬田村漁業協同組合などは24日、職員らがドローンの操縦に必要な国家資格を取得するための研修会を村内で開いた。

研修には漁協職員3人と村職員1人が参加。一般社団法人「日本ドローン活用推進機構」(青森市)の担当者が、操縦の注意点や関連法令について解説。ドローンを離着陸させたり、前後左右へ移動させたりする実技訓練も行った。研修は来年1月まで。

村漁協参事の中川貴世仁さん(52)は「空中でドローンを安定させるのは難しかったが、密漁防止に役立てるため頑張って技術を習得したい」と話していた。

ナマコ守るノドローン学ぶ 密漁対策 蓬田村漁協など



ドローンの操縦訓練を行う漁協職員ら(24日、蓬田村で)

読売新聞
2023年11月25日掲載

メディア掲載実績 新聞・Web

◆青森県 東通村

ドローン密漁対策 実証実験

Web 東奥

Ads by Google

フィードバックを送信 広告表示設定

サイト内記事検索

ニュース 時論・コラム 訃報・お悔やみ スポーツ 特集・連載 暮らし レジャー エンタメ 写真

100万円ある方が稼げる

ほったらかし投資

第二の年金「年6回分配」

トップ » 青森ニュース » 科学・技術

2023年11月27日

アワビ密漁ドローンで防ぐ／東通で実証実験

一般社団法人日本ドローン活用推進機構（青森市）は27日、東通村の小田野沢漁港で、ドローンを使ったアワビ密漁対策の実証実験を行った。小田野沢漁協、県漁連など関係者約30人が密漁防止に向け、ドローンで撮影した画質の有効性などを確かめた。

科学・技術 農林水産・食 防犯・防災

不審船の侵入を想定した実証実験で、ドローンで撮影した画像。船の姿がはっきり確認できる＝27日午後、東通村小田野沢

Web東奥 2023年11月27日掲載

密漁対策にドローンを活用 犯人逃走の対策が急務の漁協が効果を探るため実証実験

提供 JDUI 日本ドローン活用機構

ATV 青森テレビ

2023年11月28日(火) 11:28

国内

青森テレビ
2023年11月28日放送・WEB掲載